

「紛争予防と平和の持続」に関する安保理公開討論における
岸副大臣ステートメント（仮訳）
平成 29 年 1 月 11 日

議長,

非常に時宜にかなったテーマのもとでの公開討論を開催し、議長を務められることに感謝いたします。また、安保理にお越しいただいたグテーレス事務総長を歓迎したいと思います。

グテーレス事務総長,

本日決意の言葉を共有いただき、感謝いたします。国連に貴事務総長をお迎えできることを非常に嬉しく思います。我々として貴事務総長を完全に支援します。

過去二年に亘り、各種レビューを通じ紛争予防の重要性が注目された一年でした。シリア、イエメン等、そしてアフリカ各地の紛争は、紛争予防の不足のつけです。安保理は目の前の危機対応に大きな責任を負っていますが、はるかに低コストとなる紛争予防でも、安保理訪問ミッション等のツールを活用して成果を挙げるべきです。

安保理が紛争の解決のみならず、紛争の予防においてもリーダーとなるべきです。また、平和の持続を国連のあらゆる面の横糸として縫込む必要があります。

議長,

平和を長期的なプロセスと捉え、包括的かつ切れ目のない支援を重視してきた我が国は、この挑戦に真正面から取り組んでいく考えです。

我が国は、「人間の安全保障」を日本外交の重要な柱とし、「人間中心」で「包括的」でかつ「予防的」な支援を「支援機関の一体性」をもって実施することを一貫して重視してきました。こうした包括的アプローチの一例として、ミンダナオでは、政府レベルの和平交渉のみならずトラック 2 対話を支援したり、予防の観点から貧困、若者の高失業率、社会的不平等に対応すべく、ODAを通じた平和の配当を実施しました。また、我が国はこの観点から国連人間の安全保障基金の取組を支援しており、1999 年の創設以来、4.1 億ドルを拠出しています。

また、我が国は人材育成、制度構築等を重視する「平和構築」に一貫して取り組んできました。東ティモールでは、1999年以来、開発支援、自衛隊・文民警察派遣等を通じ、国づくりの努力を支援しました。PBCでも、教訓作業部会議長国としてリードをとってきました。引き続き、持続的な平和構築の核心たる制度構築面でリーダーシップを発揮していく考えです。

事務総長、

貴事務総長のステートメントを注意深く伺いました。貴事務総長の行動計画を歓迎し、今後更にそのイニシアティブについて議論していきたいと、我が国として支援を惜しみません。

中東等における紛争発生国における活発な周旋活動及び安保理との協働を強く支持します。また、紛争予防強化のために、情勢認識やホライゾン・スキャンニングに関するブリーフィングを積極的に行っていただきたいと思います。また、事務総長の権限を存分に活用し、国連憲章第99条に基づく安保理への注意喚起も躊躇すべきではありません。安保理非公式協議に頻繁に出席いただきたいと思います。

平和の持続で成果を生むために国連改革が必要であることを強調したいと思います。シームレスかつ全体的な取組を実現するためには、各機関のサイロ化を排除し、その連携強化が不可欠です。これはDPA、DPKO、PBSO等の平和と安全に関する諸機関の効率化と一体性確保に留まらず、国連の3つの柱の間の大規模な有機的連携の強化が不可欠です。「人道と開発の連携」をはじめとするUNHCRで発揮された改革マインドを創造的に発揮いただきたいと思います。紛争予防と平和の持続により良く対応できるよう、事務局を改革するとの事務総長のイニシアティブを歓迎いたします。

議長、

日本外交の柱は「積極的平和主義」です。安保理理事国として、能動的・成果主義のアプローチで、他の理事国及び事務総長と連携して成果を出したいと考えます。我が国は、新事務総長の頼れるパートナーとして、また、責任ある安保理理事国として、国際社会の平和と安定のために積極的に取り組んでいきます。

ありがとうございました。